

令和2年9月4日
音響技術科 2D 古川友海
音響芸術科 2F 對馬愛佳

津軽弁について

① 研究動機

二人とも青森県の津軽地方出身という共通点。

小さい頃からネイティブ津軽弁の環境で育ってきた私たちは専門入学とともに上京して初めて“標準語”に囲まれて方言が恋しくなり研究しようと思った。

周りから珍しがられ自分たちの方言は特別なものなのだと知りより深く探求したいと思った。

研究を通して津軽弁を知らない人に知ってもらいたい。

② 調査方法

インターネット、wave spectra

③ 調査結果

➤ 語源

青森県の二大方言である津軽弁と南部弁は、旧藩境がことばの境界として残存している日本で唯一の方言として名高い。しかし、意外にもどこがその境界なのかを知らないままにいる学生も少なくはないのが事実である。例えば、社会科の副教材「わたしたちのあおもりけん」・「私たちの青森県」では、藩境と津軽・南部の地方の関係について説明されておらず、当然ながら、津軽弁と南部弁という方言などに関する記述も見られない。

この通り具体的な語源は載っていなかった。

また県内には三つの地方にそれぞれの方言がある。

津軽地方→津軽弁、三八上北(南部地方)→南部弁、(下北半島→下北弁)

津軽弁または津軽方言は、青森県津軽地方が話される日本語の方言である。

東北方言(北奥羽方言)に属する。津軽海峡の対岸である北海道の松前郡も津軽弁の影響が大きい。

➤ 特徴

共通語とは発音が大きく異なる。独特な言い回しが多いため日本語の方言では難解とされている。

長文を短く表現する東北方言の特徴を端的に表している。

(例)「どさ」(どこへ行くの)

「ゆさ」(銭湯に行くよ)

全国放送のテレビ番組では津軽弁に対して共通語の字幕を付けることが多い。津軽弁を聞きなれない人には外国語のように感じられることもあり、2010年には津軽弁とフランス語を聞き間違えるという内容のトヨタ自動車「パッソ」のCMが話題となった。

➤ 文法

一人称：「わ」「おら」 二人称：「な」「おめ」 複数：「わあだち」「おめだち」

動詞の活用は基本的に共通語と同じだが、五段活用をする動詞の「行こう」「やろう」などにあたる形はなく(代わりに「行ぐべ」のように「べ」を使う)四段活用である。

また「買う」「習う」などのワ行四段活用が「かる」「ならる」のように変わる。

一般動詞の命令系は、「起ぎろ」「聞げろ」のように語尾に「ろ」を使うが日本海側の西津軽郡では「起ぎれ」「聞げれ」のように語尾に「れ」を使うことがある。

サ行変格活用の「する」は未然形では「しねあ」または「さねえ」(しない)、仮定形は「せば」、命令形は「しろ」または「せ」となる。

意志・勧誘・推量「べ」

推量→「べ」+「おん」=「びょん」

(例)聞ぐべ、静かだべ

共通語の「ている」→「食ってら」みたいな「てら」、「でら」が使われる。

若い人→「食っちゅー」「書いじゅー」とか「書いじゃー」みたいな「ちゅ」「じゅ」「じゃ」「ちゃ」が使われている。

自発

「書かさる」「押ささる」「積まさる」

助詞

「が」がなくなる「花が咲いた」→「花咲いだ」

強調するする場合は「さげごとのむ」(酒を飲む)のように「ごと」「ば」を使う。

前置詞の「に」にあたる語は「さ」などになる。

(例)「先生に聞く」→「先生さ聞く」

「～だから」→「～だはんで」、「～だけれども」→「～だばって」

「ならば」→「せば」「へば」

「行くとするならさ」→「行ぐってせばさ」

➤ 発音

母音「i、u」は中舌位母音。「e」は「i」に近い発音。

「シ」と「ス」、「チ」と「ツ」、「ジ」と「ズ」の区別がない。

(例)寿司→スス(→ʃ)、獅子→スス(ʃ\)

語中、語尾のカ行、タ行が濁音化してガ行、ダ行になる。

(例)イカ→イガ、みかん→みがん

上記と同じように語中、語尾のザ行、ダ行、バ行音は直前に軽い鼻音を伴って発音される。

(例)油→あんぶら、すじこ→すんずご

連母音「ai」、「ae」は融合しつつ「エァ」となる。普通の「エ」とは異なる音で「oi」、「ui」も同様の融合を起こす。

(例)浅い→あせあ、大根→であごん

⇒「浅い」の発音に関しては、口悪く聞こえる理由に繋がると思う

長音「ー」、促音「っ」、撥音「ん」は共通語よりも短く発言される。

➤ アクセント

津軽弁のアクセントには、ある場所から高くなりそれ以降もそのまま高くなるという規制がある。

➤ どんなのがある？

名詞

母親、奥さん、おばさん→あっちゃ、かっちゃ、おかちゃ、おが

父親、旦那、おじさん→おとちゃ、おど

友達→けやぐ

お金→じえんこ

小銭→だらっこ

ひたい→なずぎ

上あご→あげた

愚か者、あほ→ほんずなし

動詞

捨てる→なげる

教える→しかへる

来い、おいで、行くぞ→あべ

腐る→あめる

水に浸してふやかす→うるがす

いじける→こんつける

駄々をこねる→ごんぼほる

形容詞

熱い→あつつい、冷たい→しゃっこい

大変だ→たんだでねえ

副詞

ほんの少し→わんつか
たくさん→うって、
とても→わったど、がっぱ

接続詞

だけど→したばって

会話に出てくるもの

そうだ→んだ
だめ→まいね
さようなら→へば
(テレビに)映っている→はいってる
どうしよう→どすべ
どうしてる?→どしちゃー
どうして?→なしてや
どうした→なした
うわあ!と驚いたとき→わいは

独特

食べ物がのどに詰まるとき→むつつい
気持ちいい→あずましい(お風呂に入ったときなど)

➤ こういうところが面白い

ひとつの単語に複数の意味がある

⇒話の脈絡とイントネーションから識別する

(例)「け」

「毛が無い」→「け、ねえ」 (↗↘)

「あげない」→「けねえ」 (↘↗)

「消えない」→「けえねえ」 (→→)

「食べれない」→「けねえ」「かいねえ」 (↗↘)(→↗)

「簡単だよ」→「けーねー」 (↗↘)

「ちょうだい!」→「けれ」 (→↗)

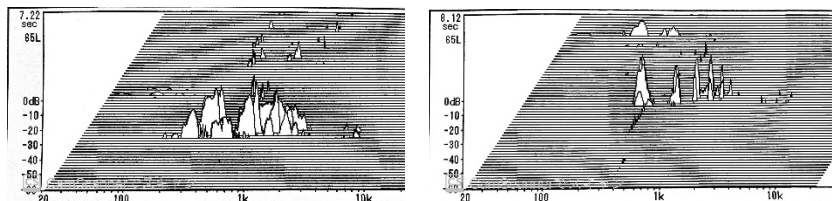
➤ 誤解

「～っぺ」や「だっぺ」という語尾は使わない。(茨城や栃木など北関東の方言)

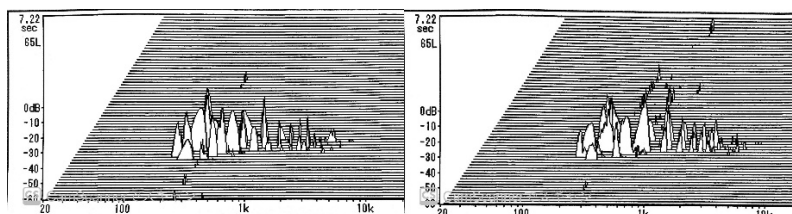
➤ 波形

wave spectra を用いて作成。

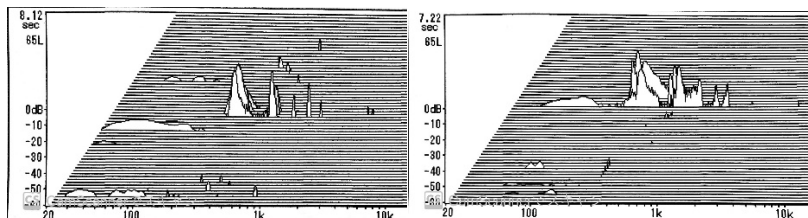
「あおもり」(左：標準語、右：津軽弁)



「コインランドリー」(左：標準語、右：津軽弁)



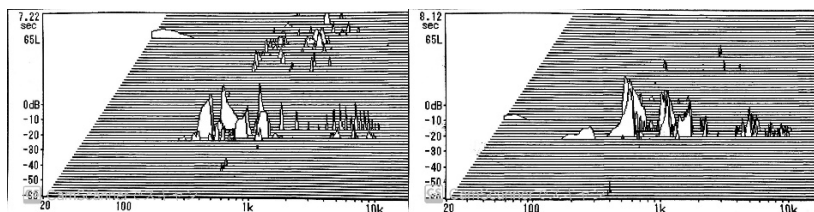
「すじこ」(左：標準語、右：津軽弁)



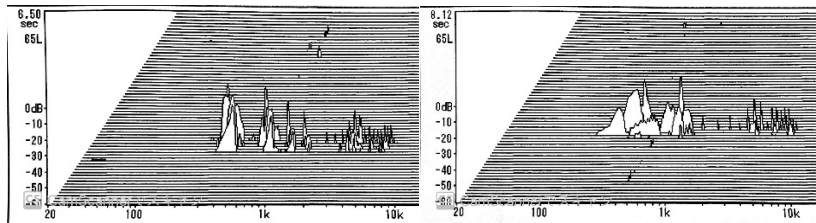
・「け」について

「毛が無い」→「け、ねえ」

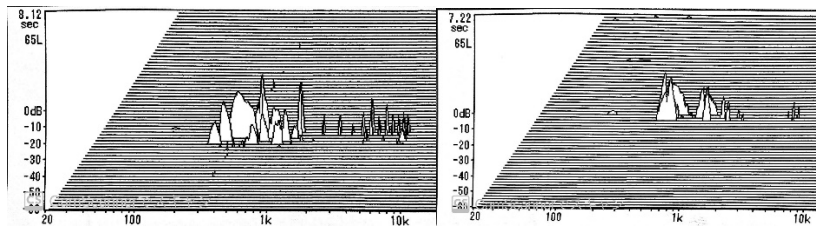
「あげない」→「けねえ」



「消えない」→「けえねえ」 「食べられない」→「けねえ」「かいねえ」



「簡単だよ」→「けーねー」 「ちょうだい！」→「けれ」



④ まとめ

短い言葉で物事を伝えていることが多い。

標準語では説明するのが難しい言葉（例：あずましい）も津軽弁で一言で表せるのは便利だと感じたので日本共通で使われたら便利な言葉もある。

濁音や特徴的なイントネーションが多い（+早口）ので津軽地方以外の人に伝わらないのだと感じた。

波形もイントネーションが違うだけで形が全く違うことが分かったので聞きなれない人からしたら聞き取って意味を理解するのは難しいと思った。

⑤ 今回を通して改善すべきポイント

全体的にもう少し深く研究したかった。

元の言葉と全く言い方が違うワードの意味を調べられたらよかった。

⑥ 今後について

津軽弁という消えゆく文化を忘れないようにしていきたい。

⑦ 参考文献

Wikipedia

発信！方言の魅力-体験する青森県の方言-文化庁